

福岡県における文化芸術活動実態調査の結果について

1 調査目的

県民の文化芸術活動の実態及び文化芸術振興に関するニーズを把握し、「福岡県文化芸術振興基本計画」策定の基礎資料とするほか、今後の県の文化芸術推進に係る施策に反映させる。

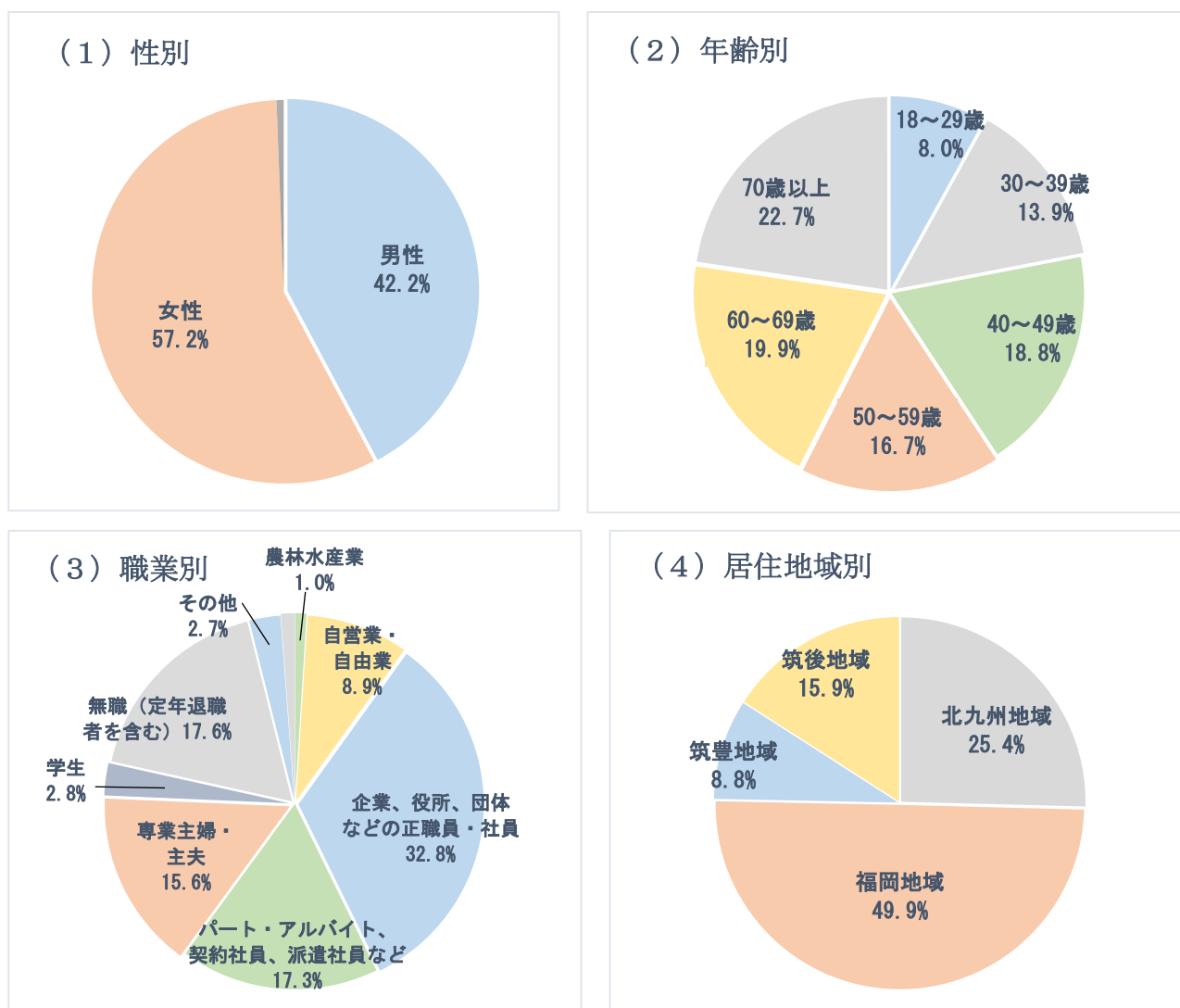
2 調査対象及び回収率

- (1) 県内に居住する 18 歳以上の男女個人 4,000 人(4 地域(北九州・福岡・筑豊・筑後)×1,000 人)
 - ▷ 有効回収数 1,468 人 (有効回収率 36.7%)
- (2) 県内の指定障がい福祉サービス事業所 1,526 事業所
 - ▷ 有効回収数 780 事業所 (有効回収率 51.1%)
- (3) 福岡県文化団体連合会に所属する 89 団体
 - ▷ 有効回収数 64 団体 (有効回収率 71.9%)

3 調査期間

令和 2 (2020) 年 7 月～8 月

※ 標本構成 (県内に居住する 18 歳以上の男女個人 4,000 人に対する調査)

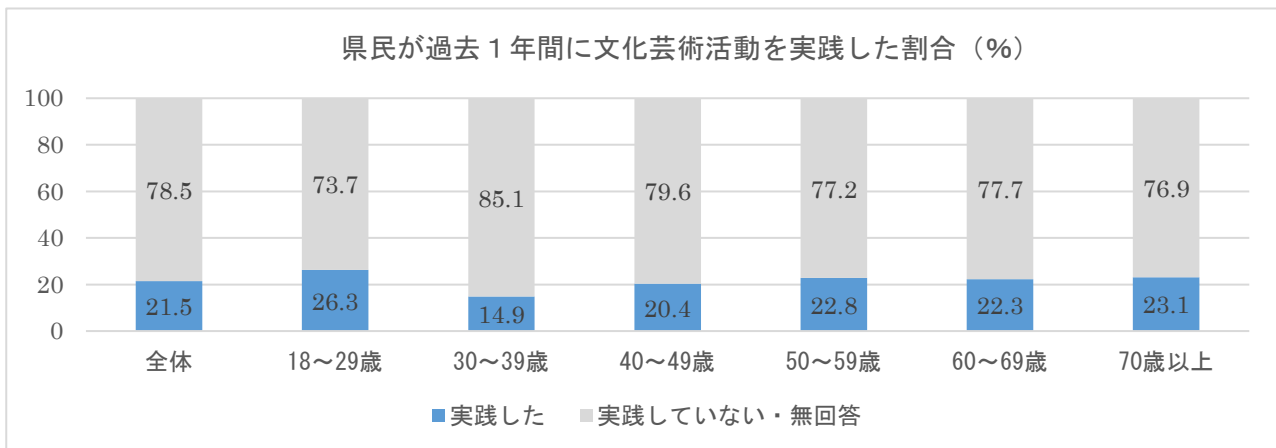


4 調査結果の概要

(1) 「文化芸術の振興」に関すること

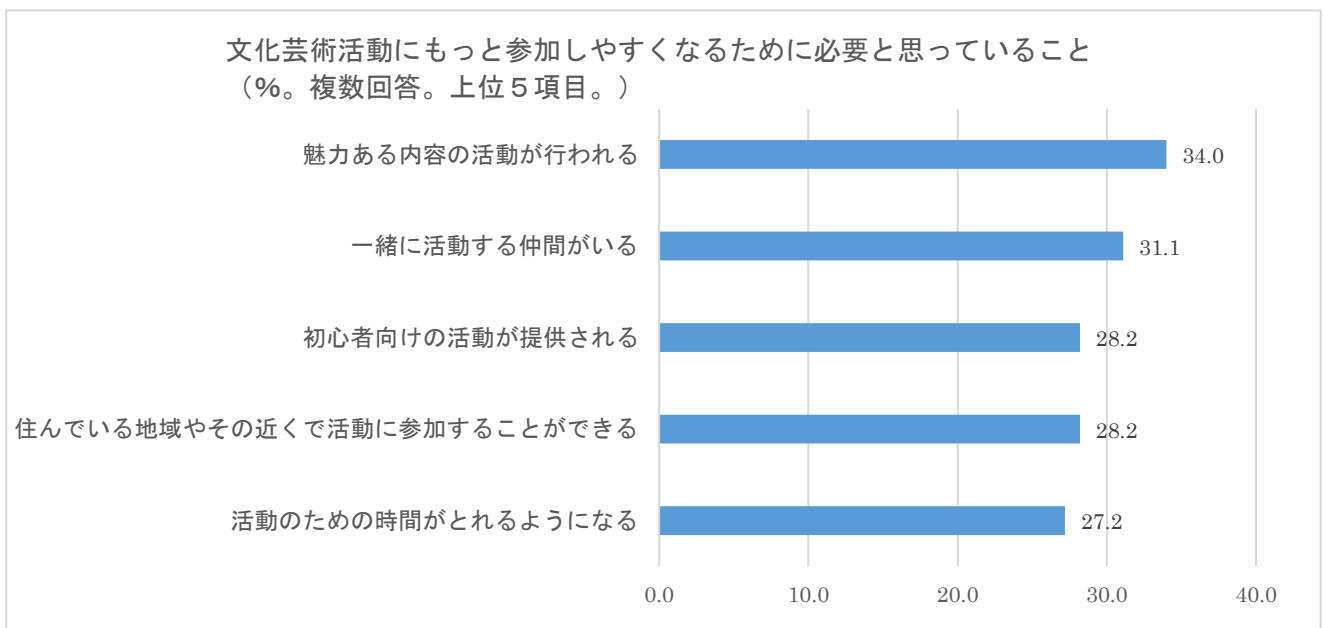
○ 自ら文化芸術活動を実践した県民の割合

過去1年間に自ら文化芸術活動を実践した県民の割合は、**21.5%**となっています。年代別では、他の年代が2割を上回っているのに対し、30～39歳は**14.9%**と相対的に低くなっています。



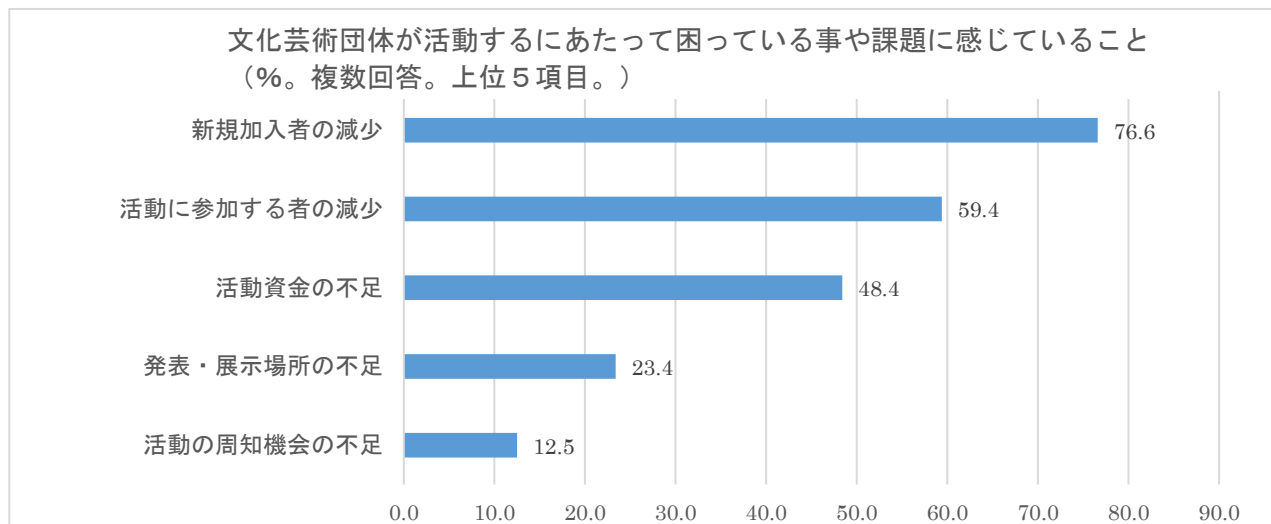
○ 文化芸術活動に参加しやすくなるために必要なこと

文化芸術活動にもっと参加しやすくなるために県民が必要だと思っていることとして、近場で魅力的な活動があること等に加え、「一緒に活動する仲間がいる」(**31.1%**)、「初心者向けの活動が提供される」(**28.2%**)といった回答が相対的に多くあります。



○ 文化芸術団体が活動するにあたって困っていることや課題

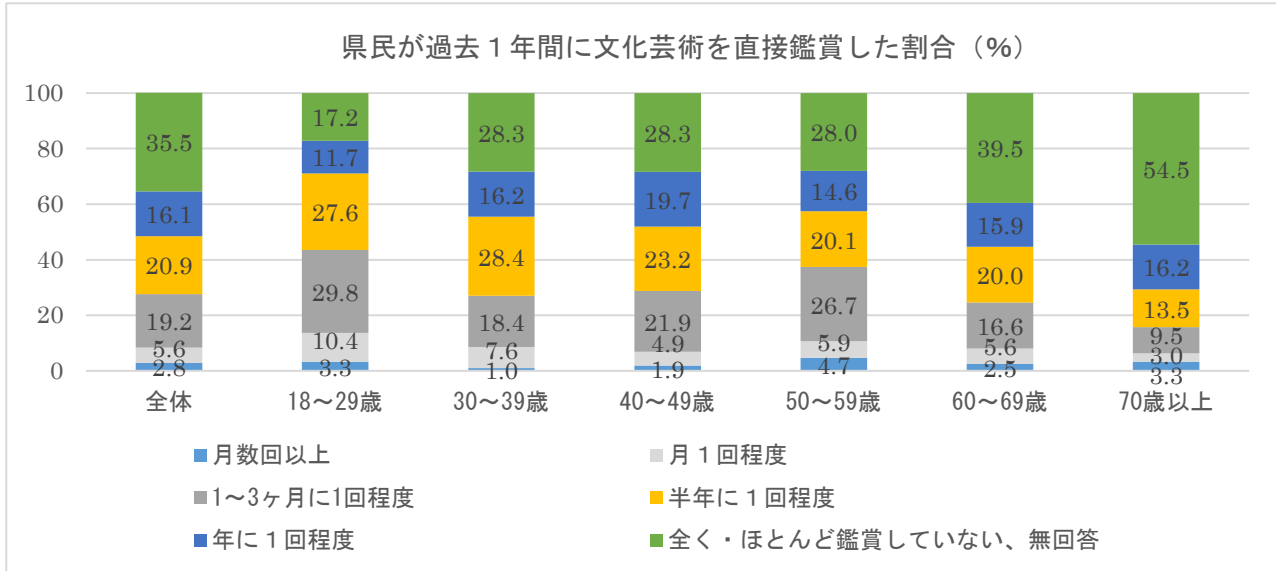
県内の文化芸術団体が活動するにあたって困っていることや課題に感じていることとして、回答の多いものから順に、「新規加入者の減少」(76.6%)、「活動に参加する者の減少」(59.4%)、「活動資金の不足」(48.4%)となっています。



(2) 「文化芸術に親しむことができる環境づくり」に関すること

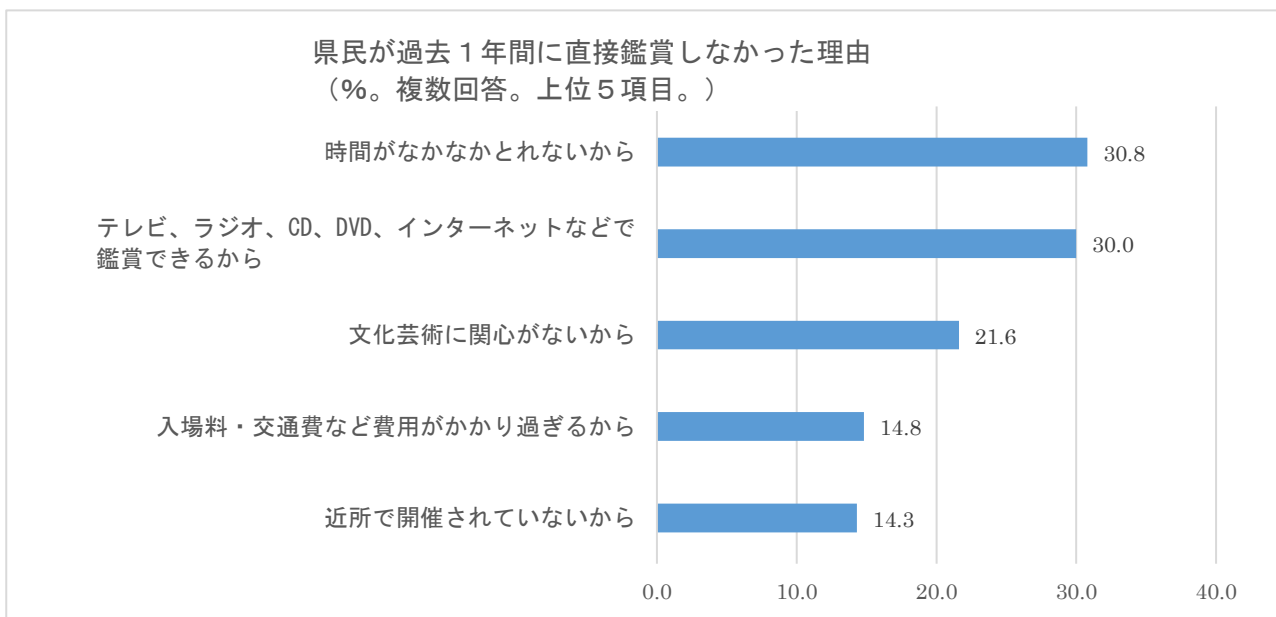
○ 文化芸術を直接鑑賞した県民の割合

過去1年間にホール・劇場、映画館、美術館・博物館等で、文化芸術を直接鑑賞した県民の割合は、**64.5%**となっています。年代別では、18～29歳が最も高く**82.8%**、70歳以上が最も低く**45.5%**であり、年代が高くなるにつれて鑑賞の頻度も下がる傾向が見られます。



○ 文化芸術を直接鑑賞しなかった理由

県民が文化芸術を直接鑑賞しなかった理由としては、回答の多いものから順に、「時間がなかなかとれないから」(**30.8%**)、「テレビ、ラジオ、CD、DVD、インターネットなどで鑑賞できるから(鑑賞した)から」(**30.0%**)、「文化芸術に関心がないから」(**21.6%**)となっています。

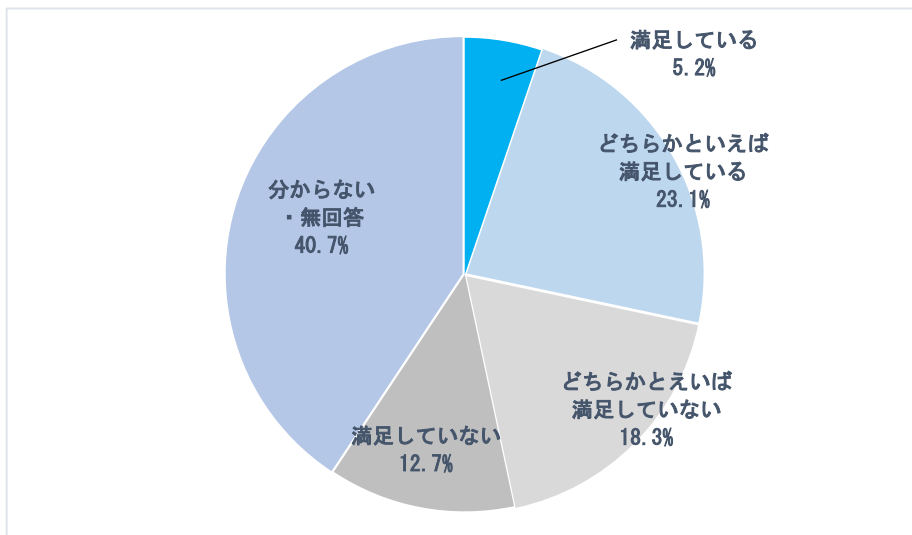


○ 地域の文化的環境への満足度

文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や文化財・伝統的なまちなみの保存・整備など、住んでいる地域の文化的環境に「満足」又は「どちらかといえば満足」と回答した県民

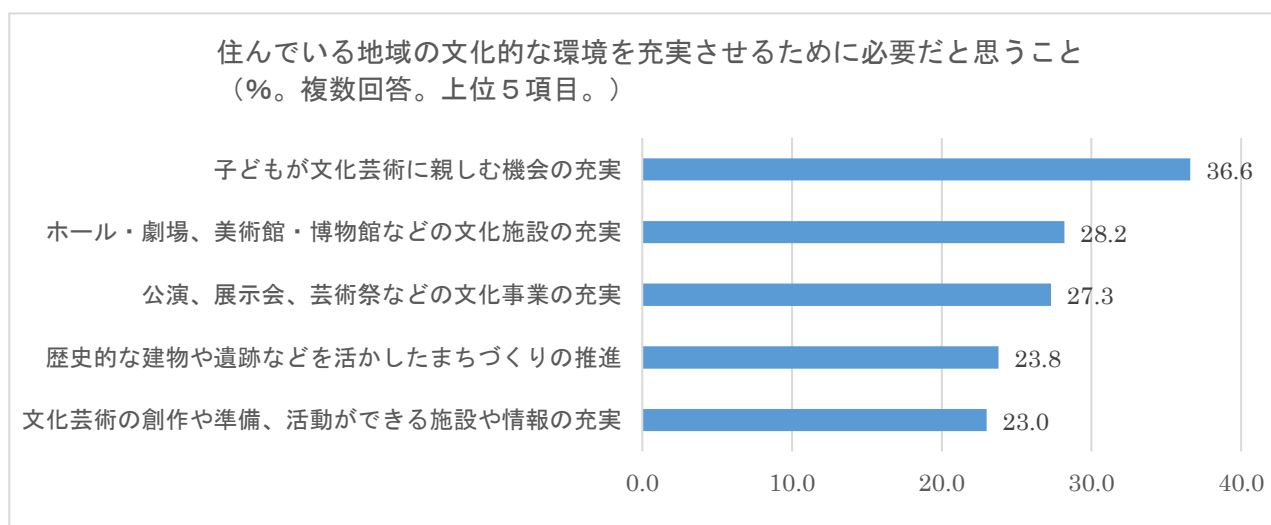
(28.3%)よりも、「満足していない」又は「どちらかといえば満足していない」と回答した県民(31.0%)の方が多くなっています。

文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会や文化財・伝統的なまちなみの保存・整備など、住んでいる地域での文化的な環境に満足しているか（県民回答）



○ 地域の文化的環境を充実させるために必要なこと

住んでいる地域の文化的な環境を充実させるために県民が必要だと思うこととして、回答の多いものから順に、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」(36.6%)、「ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実」(28.2%)、「公演、展示会、芸術祭などの文化事業の充実」(27.3%)となっています。



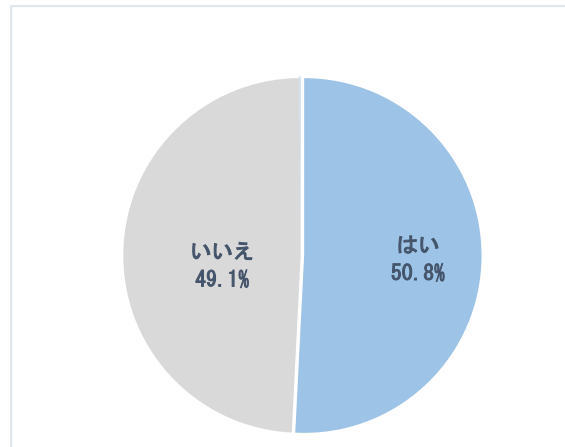
(3) 「障がいのある人の文化芸術活動の推進」に関すること

○ 指定障がい福祉サービス事業所での文化芸術活動の実施状況

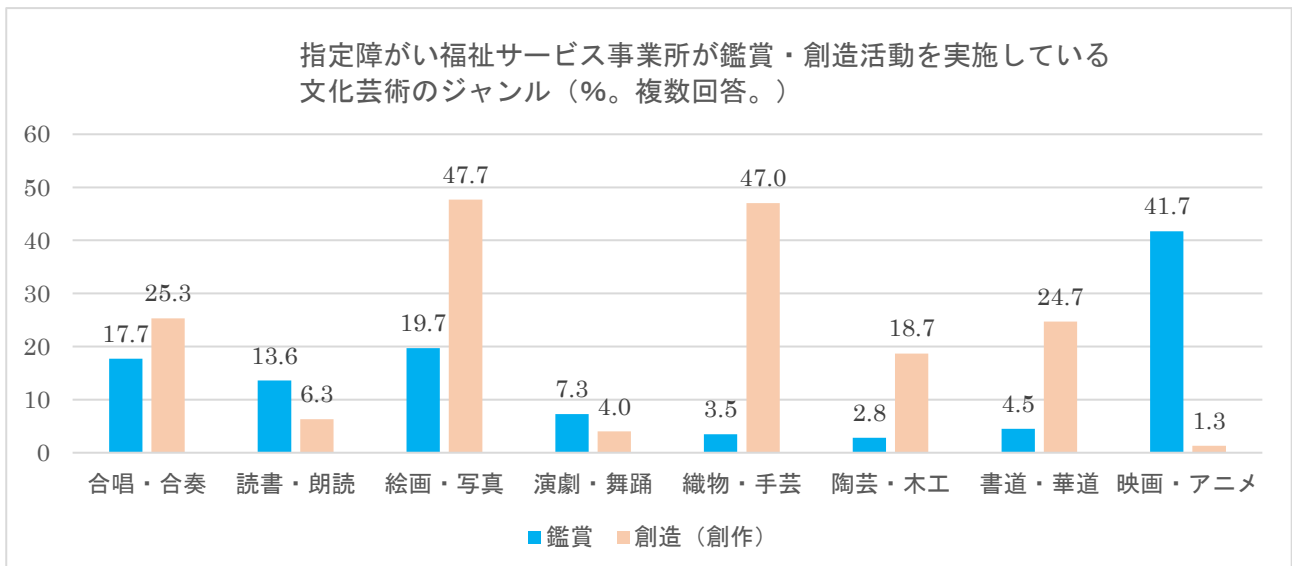
県内の指定障がい福祉サービス事業所のうち50.8%が、施設の内外で文化芸術活動を実施しています。

実施している活動のジャンルについて、鑑賞活動は、多いものから順に、「映画・アニメ」(41.7%)、「絵画・写真」(19.7%)、「合唱・合奏」(17.7%)となっており、創造(創作)活動は、多いものから順に、「絵画・写真」(47.7%)、「織物・手芸」(47.0%)、「合唱・合奏」(25.3%)となっています。

事業所で文化芸術活動を実施しているか
(指定障がい福祉サービス事業所回答)



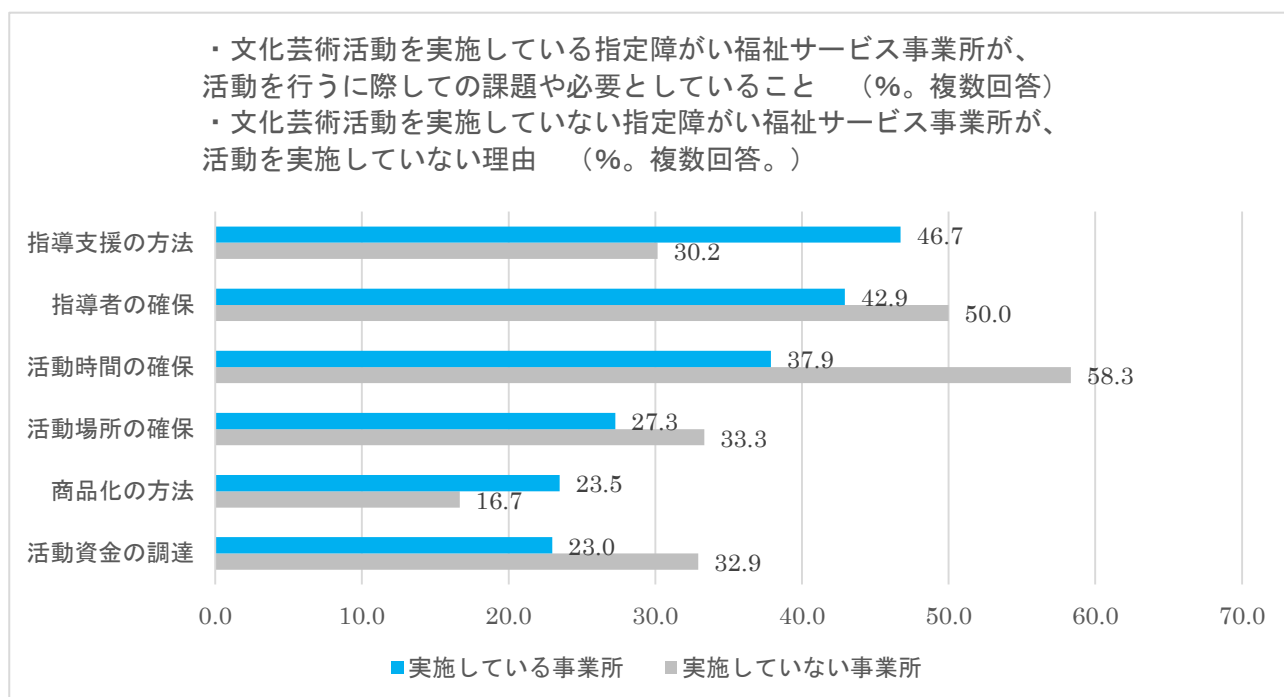
指定障がい福祉サービス事業所が鑑賞・創造活動を実施している文化芸術のジャンル(%)。複数回答。



○ 指定障がい福祉サービス事業所における文化芸術活動の課題

文化芸術活動を実施している県内の指定障がい福祉サービス事業所が、活動を行うに際しての課題や必要としていることとして、回答の多いものから順に、「指導支援の方法」(46.7%)、「指導者の確保」(42.9%)、「活動時間の確保」(37.9%)となっています。

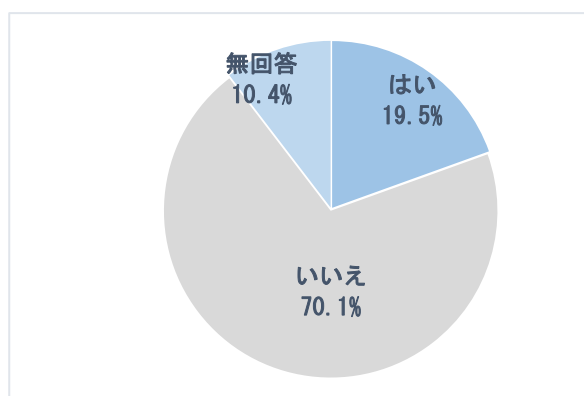
また、文化芸術活動を実施していない事業所が活動を実施していない理由として、回答の多いものから順に、「活動時間の確保」(58.3%)、「指導者の確保」(50.0%)、「活動場所の確保」(33.3%)となっています。



○ 障がいのある人の文化芸術活動についての相談体制の整備や支援者の育成に関する施策への満足度

県内で障がいのある人の文化芸術活動についての相談体制の整備や支援者の育成(研修等)に関する施策が「十分だと思う」(19.5%)と回答した事業所は、「十分だと思わない」(70.1%)と回答した事業所を大きく下回っています。

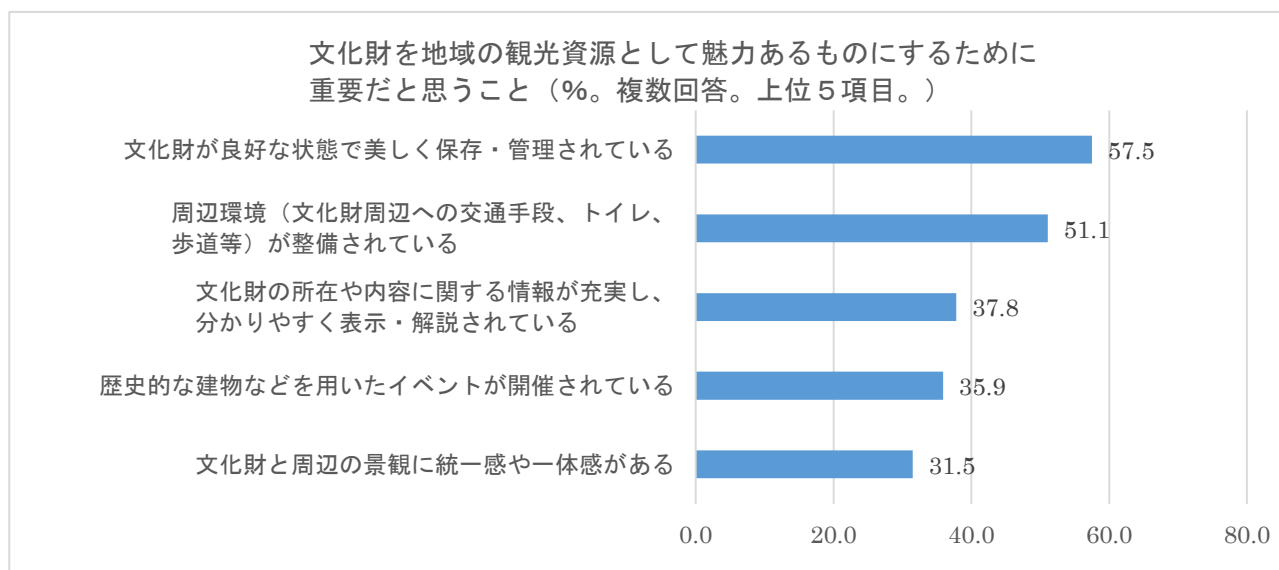
県内で障がいのある人の文化芸術活動についての相談体制の整備や支援者の育成(研修等)に関する施策は十分だと思うか(指定障がい福祉サービス事業所回答)



(4) 「文化芸術を活用した地域づくりと魅力の発信」に関すること

○ 文化財を地域の観光資源として魅力あるものにするために重要なこと

文化財を地域の観光資源として魅力あるものにするために県民が重要だと思うこととして、回答の多いものから順に、「文化財が良好な状態で美しく保存・管理されている」(57.5%)、「周辺環境(文化財周辺への交通手段、トイレ、歩道等)が整備されている」(51.1%)、「文化財の所在や内容に関する情報が充実し、分かりやすく表示・解説されている」(37.8%)となっています。



○ 文化イベントに国内外の多くの人々が参加するために必要なこと

文化イベントに国内外の多くの人々が参加するために県民が必要だと思うこととして、回答の多いものから順に、「文化イベントが交通の利便が良い場所で行われる」(57.7%)、「多言語による案内や解説が充実する」(45.6%)、「チケット代が安くなる」(42.6%)となっています。

